

農業経営は、伝統的に家族経営が主流であり、世代間の経営継承によって存続してきました。しかしながら、近年は、農家数は減少傾向にあり、農業の縮小傾向が続いており、農業経営や農村社会の持続可能性の問題に直面しています。その一方で、企業的・組織的な農業経営が開発され、農業生産に占めるシェアを拡大するとともに、農業生産に関連した多様なビジネス展開として、農業クラスター、6次産業化、農商工連携、ネットワーク化、フランチャイズ化、企業参入、法人化、事業多角化などの事例が増加しています。農業に限らず、産業の持続的な発展の原動力はイノベーションであり、それを実行するための姿勢、想像力、能力として起業家精神が挙げられます。しかしながら、それらのメカニズムは必ずしも明確にはなっていません。また、持続可能性の評価に関しては、経済性、社会性、環境性の3つの側面から評価するトリプルボトムラインの考え方があり、3側面の水準とバランスが重要になります。しかしながら、経済性、社会性、環境性の相互関係は複雑であるため、持続可能性を高めるための経営戦略の策定は容易ではありません。一般に経済性と社会性・環境性の間にはトレードオフが想定されますが、近年は、社会的価値を高め、それを経済的価値に転換する共有価値創造の戦略も提唱されています。

以上のテーマを中心として、持続可能な農業経営と農村社会の構築に資する研究を行っています。

